

秋間小だより

安中市立秋間小学校

NO15 令和4年12月1日

発行責任者：木口 敦子

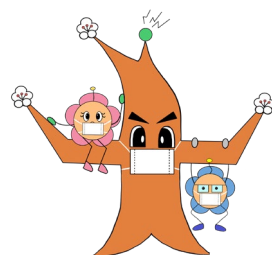
【学校教育目標】 育てよう！未来に続く「生きる力」～家庭・地域と共に～

令和4年もあと一月となりました。

第八波の到来を感じる新型コロナウイルスですが、この感染症への対応の仕方や意識もこの3年ですいぶん変化し、今年是世界中で大会やお祭りが復活しました。

学校関係も、陸上記録会、水泳記録会、作品展、音楽発表会など、「できる方法」を探しながら復活に挑戦した年でした。もとの生活に戻ることの嬉しさと、安易にもとに戻って時代の変化から学校だけがまた取り残される懸念との複雑な気持ちがあるところあります。

未来の社会を支える人を育てる学校は、守るべき伝統と更新すべき慣習をいろいろな立場の人々と対話しながらしっかりと見極めねばならないのではないかと考えています。



持久走大会

11月15日（火）に校内持久走大会が西毛グラウンドで行われました。前日の夜から朝にかけて雨が降り、天候が心配されましたが、ちょうどよい時間に雨が上がって予定通り実施でき、本当に良かったです。

保護者の皆様も肌寒い中、応援にかけつけてくださり本当にありがとうございました。

各学年のレースでは、デッドヒートあり、ゴールでの涙ありと子供たちの真剣な姿をたくさん見ることができました。

持久走は学校において絶対にやらせなければならない種目ではありません。しかしながら、この種目は心肺機能の向上、あきらめない心の育成、そして「自分は困難を乗り越えられる人間だ」という自信を育てる種目であると思います。また、生涯スポーツとしては、最もお金がかからず、自分のペースで楽しめる種目であるとも考えられます。私も休日にはお気に入りの場所に走りに行きます。子供の頃は運動の中で一番苦手な持久走でしたが、今は走ることでストレスが解消されるのを実感しています。

レースとなると厳しいスポーツですが、生涯にわたって走ることを楽しめる人に育ててほしいと思います。



秋間梅林での活動

「桜切る馬鹿、梅切らぬ馬鹿」ということわざを聞いたことがあります。調べたところ桜は一度剪定して新たに伸びた枝の途中には花が咲かず、逆に梅は伸びた枝全体に枝から直接花が咲くため、刈り込んで新しい枝を伸ばした方が多くの花をつけさせることができるのだそうです。

秋間小学校では毎年3年生が秋間梅林の梅の剪定のお手伝いをさせてもらっています。今年も11月21日に梅林に出かけてきました。のこぎりで太い枝を切るのは大変で「腕が疲れる」と言いながらも頑張りました。梅林の方の説明も積極的に聞くことができたそうです。梅農家の方の丁寧な世話や手入れが秋間梅林を守っているのだということを子供たちは学んだはずです。



秋間小人権学習強調月間スタート

12月10日は「世界人権デー」で、日本では12月4日から12月10日を「人権週間」としてしています。秋間小学校でも11月28日（月）に人権集会がリモートで行われ、今年はこの日から12月19日（月）までを人権学習強調月間として、子供たちや教職員の人権意識の向上を図ります。

人権集会では、企画委員の児童から、①全校の人権的な課題 ②課題解決のためのアクションの提案が説明されました。

①全校の人権的な課題

全校アンケートで「嫌なことを言われたことがある」と回答した児童が全体の約30%おり、そのほとんどが「悪口」である。

②課題解決のためのアクションの提案

まず企画委員が意見を出し合い、代表的な「ふわふわ言葉をつかおう」「友達の心の声に気付こう」「誰にでも声をかけよう」「勇気を出そう」という意見をヒントに各クラスで“いじめの起きないクラスにするための取組”を話し合い、実行する。個人では梅の花のカードに「友達を大切にするための自分の目標」を秋間小人権宣言として書く。

また、人権主任の原先生からは、「人権とは誰もがもっている幸せに生きるための権利を言います。でも、一人一人個性が違うように、幸せの形も一人一人違います。だから、お友達の様子や表情をよく見て、言葉のかけ方や行動を相手にとって一番心地良いものになるようにチェンジしていきましょう。そして、この取組を友達も自分も互いによく知るチャンスにしていきたいと思います。」というお話がありました。

企画委員の提案「友達の心の声に気付こう」も原先生の「幸せの形にも個性がある」というお話もとても素晴らしいと思いました。

相手からの自分に対する言動には敏感で、相手に対する自分の言動には鈍感である実態は、大人である自分を含め多くの人に見られます。

今年の秋間小学校人権学習強調月間を通して、自分のことも周りの人のことも改めてよく見つめ直し、相手の心の声を聞きながら互いに互いを幸せにできる人間になるにはどうすべきなのか、子供たちと一緒に考えていきたいと思っています。

